

◆大使からの活動報告(2015年5月)

<日・中米ビジネス・フォーラム特集>

2015年5月29日

在グアテマラ日本大使館
特命全権大使 川原英一

■日・中米ビジネス・フォーラムの開催

2015年5月25-26日、日・中米ビジネス・フォーラムが、グアテマラ政府が主催する形で、市内カミノ・レアルホテルで開催され、2006年以来、2度目、9年ぶりの開催です。今回は、日本企業 52社、110名、また、中米企業は、153社、298名と大変多くの参加がありました。この結果、日本と中米諸国間のビジネス交流史上かつてない大規模なビジネス交流機会になりました(右上写真:宇都外務大臣政務官演説風景)。



◎当国プレスの反応

当国外務省のアレンジによる今回フォーラム開催1週間前(5月18日)の事前記者会見の際には、多くのメディアが集まってくれていた(左横写真)ので、当方から、中米各国のビジネスマンにとり、日本との



ビジネス交流を深めるための、またとない絶好の場であり、この機会を大いに活用すべきではないか、と発言を致しました。後日、当地主要紙「Siglo21(21世紀)」による独占取材の際にも同様の内容を話し、5月21日付同紙記事(右写真)として掲載がされました。



5月25日午前、当国ペレス・モリーナ大統領の御出席を得て行われた本ビジネス・フォーラム開会式の模様は、当地主要紙・TV各局が大きく報じ、日本と中米企業間のビジネス交流に対して当地ビジネス関係者の関心が大いに高まったものと思われます。



◎宇都外務大臣政務官の御活躍

今回のビジネス・フォーラムに日本政府代表として、宇都隆史外務大臣政務官に御出席を頂きました。短期間のご滞在ではありましたが、モラレス外務大臣、ペレス・モリーナ大統領、デ・ラ・トーレ経済大臣とのバイ会談に臨まれ、それぞれに活発な意見交換をして頂きました。当国大統領との会談及びフォー



ラム開催式での御挨拶では、宇都外務大臣政務官から、昨年7月の安倍総理の対中南米政策に関する3つの理念(共に繁栄、共に主導、共に啓発)について御披露があり、中米各国にも同じ考えから、関係強化をしたい、と力強く御発言されました。この発言は、当国大統領や今回フォーラムに参加した中米企業関係者に好感を持って受け入れられました。

また、当国へ派遣されている海外青年協力隊員達と懇談頂き、隊員達は大いに励まされた様子でした。このフォーラム開催前夜の5月24日(月)夜、日本側主催による同ビジネス・フォーラム出席予定者に対するレセプションの際も、宇都外務大臣政務官より安倍総理の対中南米政策の基本理念や中米地域への日本からの長年にわたる各分野への協力について言及する御挨拶がありました。

◎小島順彦・日本経団連中南米地域委員長のご活躍



5月25日午前のビジネス・フォーラム開会式では、ペレス・モリーナ大統領、宇都外務大臣政務官、小島順彦・日本経団連中南米地域委員長(三菱商事会長)及びデアビレス SICA 事務局長らから開会の御挨拶がありました。小島会長は、日本商社トップのお立場から、現在は、世界各国に約200社の系列会社をもち、海外投資活動が全体収益の8割近くを占めており、昔の商社活動は全体収益の2割程度であること、また、経営人材育成など商社活動が時代の要請に応じて変化していること等についてのご発言も頂きました。



◎同じビジネス・フォーラム開会式にご出席された当国ペレス・モリーナ大統領の御挨拶(左写真)では、今回のビジネス・フォーラムへ、日本企業が多数参加したことへの感謝や日本との経済関係強化に向けた御発言がありました。その後、



日本企業展示ブース前での当国大統領、宇都大臣政務官、小島会長らによるオープニングのテープ・カット(右上写真)、続いて、参加した日本企業と大統領との記念撮影(左側写真)が行われるなど、日本側参加企業への配慮が感じられました。

○5月26日(火)には、日本企業との商談会が実施され、22社の日本企業関係者と中米企業との商談会がアレンジされて、商談総数は135件にもなりました。参加した日本と中米の企業関係者から、

大変に良い企画であると好評を得ました。また、同フォーラム開催期間中、企業展示ブースも設けられました。(右横写真:グアテマラ企業ブース)



◎日・中米ビジネス・フォーラムへの評価:

日本側企業の団長を勤められた小島経団連中南米地域委員長(三菱商事会長)は、「今回初めてのグアテマラ訪問であったが、当国の国民性が日本人に近く、気配りをしながらの対話があり、交流の機会が増えれば、良く気心がわかりあえるとの良い印象を持った」旨述べられました。また、当国を訪問する以前に得ていた当国関連情報と実際に訪問してみた結果が、大いに異なっており、特に、治安が悪いという情報ばかりが、日本にはあつたと語っておられた。また、日本人の心に似通った当国経済界人とは、長いビジネス上の付き合いが本当に可能ではないか、との好意的コメントを頂きました。首都グアテマラ市から1時間の距離にある古都アンティグアを訪問されて、街並みが日本の京都の風情と似通っていること、また、当国には



火山が多いことから日本との共通点を見いだしたと語っておられました。当国経済人とこれまでからコンタクトしている他の日本企業代表の方からも、同様に、グアテマラ人の性格の良さ、付き合いえば、付き合いほどに関係が深まるということを述べておられました。当国経済人に対し、同様な気持ちを抱く当方として、大いに共感できました。

(←左写真:日本政府主催レセプションと同会場風景)



○最後に:

日・中米ビジネス・フォーラムの開催に向けた道のりは1年以上かかりました。その間、何度か日程が延期され、当国外務大臣も交代し、その後、担当する次官を中心とするチームが組織的に対応しているのか、疑問視される状況にも遭遇しました。

さて、ビジネス・フォーラムが、華やかに幕を開けると、日本側が期待したプログラム内容にほぼ近く、また、ホスト国主催の社交行事も、とても立派な内容で、日・中米ビジネス関係者から好評を頂き、ビジネス・フォーラムを成功裡に終えることが出来ました。日本と中米のビジネス関係深化に向けて、大きな一歩になったのではないかと感じられました。(了)